

100%平和といえる世界へ

読谷小学校 六年 二組 源河 秀仁

僕たちはあたりまえのように毎日を暮らしています。でも、76年前までそれがあたりまえではなく、いつ亡くなってもおかしくはない戦争がおこっていました。僕は戦争のことを知るためにインターネッツで調べることになりました。

1945年4月1日の朝、アメリカ軍は守備の薄い本島中部の読谷村、嘉手納町、北谷町に上陸し、沖縄本島北部には少しの兵しか配備されていなかっただため、アメリカ軍は攻撃をかけた。4月22日に制圧され、南部もアメリカ軍に敗北し、たくさんの方が亡くなり、全戦没者数二十万六五六名だっただろうです。

僕はなぜ沖縄戦というものが起きたのか疑問に思っただので、インターネッツで調べてみることにしました。日本はアメリカやイギリスと戦争していたえうです。これが太平洋戦です。アメリカは太平洋の島々を次々と奪っ

ていき、次に沖縄を占領して日本本土を攻め
るための前進基地を使おうと考えていたえう
です。沖縄でアメリカ軍をひきとめて時間を
かせぐ、持久戦を考えたえうです。僕
は戦争を体験した僕の祖母に話を聞きました。
僕の祖母は那覇市に住んでいて、祖母はま
だ小学低学年の歳で1944年に沖縄が戦場になる
ことを知った祖母は那覇から長崎へ向かう対
馬丸に乗ろうとしたけど軍転手がおくれをと
ったえうで、祖母はアメリカ軍がいつ来るか
わからないうちがう船に乗って沖縄から
はなれて、内地へ行きたえうです。でも、あ
の時対馬丸に乗っていたら、今、僕はいなか
たかもしれません。対馬丸は長崎へ向かう
と中アメリカ軍の魚雷にあたり沈没していた
かえうです。対馬丸には子どもたちがたくさん
乗っていて、多くの人たちがかたくなりました。
僕は祖母にとても感謝しています。
ぼくは、今まで生きていてあたりまえだと
思っていました。でも、ぼくの祖母やインタ

インターネットで調べたことで、生きていられることのありがたみや、生きていられることに感謝の気持ちができて、改めて戦争はこわいことだし、二度と起こってはならないことだと思いました。

でも、今も戦争している国や、アメリカでは、人種差別されていて亡くなっている人もいます。だから、100%平和といえる世界を世界中のみんなが、平和を伝え、創っていきたいと思います。